トーク企画

市長としゃべらんで

吉野川市ふるさと大使
原井 敬 市長 × 秋山 博康 氏

「市長としゃべらんで」第12回目の今回は、本市出身で「リーゼント刑事」の愛称で親しまれる秋山博康さんとの対談が実現しましたので、その模様をお伝えします。

市長　秋山さんはリーゼント刑事としてメディアなどで活躍されていると思いますが、今東京で活動されていることを市民の方々に紹介できればと思っています。

秋山　よろしくお願いします。

　私は、警察24時に現職の時に出てましたが、たまたまタイミング的に殺人事件の〝おい！小池〟事件を追っていたんです。指名手配っていうのは情報が命で北海道から沖縄まで捜査してもなかなか捕まらない、全国からの情報が命だったので、そのときの捜査1課長が「秋山出ろ」と。

市長　当時の課長が。

秋山　はい。北海道から沖縄まで、全国民に捜査員の目になってもらったら、耳になってもらったら探してくれるだろうと。

　マスコミに出るっていうのは一つの警察のアピールと、当時の指名手配被疑者を捕まえるために出たところはありますね。

市長　メディアの影響力って大きいですもんね。

秋山　大きいですね。

市長　話は少し変わりますが、本市のふるさと納税返礼品の甘甘娘というスイートコーンをご存じですか。

秋山　これ美味しいですねー。

市長　美味しいんですよ。西日本だったら吉野川市がスイートコーンの一大産地なんですけどね。全国メディアに取り上げてもらえる機会があって、そうしたらそれからの売り上げがまったく変わってですね。

　前年度比で現在2倍以上のスイートコーンの注文があってですね。メディアに出る以前と以後でまったく売り上げが変わって。そういうメディア・マスコミの広報の仕方っていうのは非常に重要だと思っています。

秋山　今は重要視せないかんし、情報発信が大事やし、昔と違って今やSNSがあるんで個人でもそうですけど、行政もSNSで情報発信してますもんね。

市長　本市もしていますが、まだまだ手薄なところがありますので、今後強化していかなあかんなと思っています。

秋山さんの自己紹介

秋山　私は昭和35年、川島町児島で生まれ育って学島小学校、川島中学、川島高校を卒業して、徳島県警に18歳で就職して42年間徳島県警に勤めて、定年退職を一昨年の3月31日にしました。私は県警本部とか東署に勤務というのが長かったので、実際、徳島市内から川島って20数キロなんで車で1時間くらいで通えるんですよ。ただ刑事は年末年始も休みの日もなかった時代やったんで、川島へ帰りたかったけど1年に1・2回しか帰れなんだですね。

市長　徳島県内におるけど…。

秋山　そうです。

　私ね、そんときに親父やお袋に悪いなと思ってたし警察退職したら故郷は好きだったんで、今まで通えなんだ分を恩返ししたいという気持ちでずっとおったんです。

　川島町、そして当然吉野川市に対して、生まれ育った故郷として、県警退職した段階で何かほんまにできることがあれば恩返しがしたいと思っていました。それで「ふるさと大使」の話があって非常に私は感謝しているし、もっともっと吉野川市をアピールしたいなという気持ちで今もいます。

吉野川市ふるさと大使
秋山 博康（あきやま ひろやす）氏

原井 敬 市長

SNSで発信

市長　現在のタレント活動というか東京での活動はどうですか？。

秋山　実際42年勤めて今思うと、よくそんなことしたなと思うんですけど、一昨年の3月31日に定年退職して、その日の夜に片道切符で上京したんですね。そんときはほんまフリーでなんもない、今はホリプロっていう事務所からスカウトされてホリプロに所属してますけど、当時は右も左も分からん。ただ警察24時に何回も出てたんで、テレビ東京とかフジテレビとかNHKとか現場のディレクターさんは顔見知りだったんで、そんな人たちにいろいろアドバイスを受けながらテレビでコメントしよったら、それをホリプロの関係者が見てくれていてスカウトされたんですよ。

　これはチャンスやなと思って、自分の阿波弁を使って自分が生まれ育った吉野川市もアピールするし、地元川島の入学米とか、とうもろこしとか、それも自分のSNS、ツイッターとかインスタとかYouTubeで宣伝したいと思いましたね。

市長　何万人もいますもんね。特にYouTubeは各地の犯罪に対して秋山さん独自の視点というかね、被害者の人の思いとか目線に立っていろんな事案についてコメントされよるなと印象深いです。

秋山　YouTubeだと真実を語れるんですね。

　本音で国民に真実を訴えたい。真実を訴えてこれがまた犯罪予防になればという気持ちで解説しています。

市長　犯罪の抑止というか、一般の方でも使えるような防犯対策とかをYouTubeで配信されていますね。

これからも取り組んでいきたいこと

秋山　東京へ出て1年半、自分を振り返ってみたんですよ。私ね、今東京行ってすごい良かったし毎日が楽しいで。県警の42年間って悲しい顔しか見てないんですよ。事件・事故被害者やご遺体の顔とか、悲しい顔を数えきれんくらい42年も見てきたでしょ。でも今ね、毎日笑顔見よんですよ。例えば講演、テレビ、街頭活動の時とか、街で会ったりする人とか、東京に行っての活動はすべてが笑顔なんですよ。そもそも東京に行って活動しようと思ったのはやっぱり徳島県民から視野を全国に広げて全国の人を守る、犯罪予防をする、そして犯罪のない社会をつくる手助けをしたいと思って片道切符で上京したんですよね。

市長　60歳から人生が180度変わったということですね。

秋山　よく聞かれるんですけど、42年間、県警に勤めて、徳島を愛しとるし徳島県警も愛してるんで、引退して徳島でゆっくりしようと思ったんやけど、ちょうど退職一年前くらいに東京へ会議で行ってフジテレビのプロデューサーさんと会って一杯やったんですね。その人がもともと私のデビューを撮ってくれた当時のディレクターさんで、その人の一言で決めたんですけど、その人が晩ご飯食いよったときに「秋山さん42年間お疲れ様でした。どうするんですか？」「もう女房とゆっくりします」って答えたらその人がね「秋山さんまだまだ元気なんで徳島県から今度は全国に広めて防犯対策をする、そういう活動したらどうですか」って言われたんですよね。その一言で鳥肌が立って、それってできるなと、やってみようかと、もう何でも挑戦やと思って、最初は右も左も分からんし、そういう活動の経験もないし、どうやってするんかなって思いながら、けど東京行ったらいろんな人から助けてもらって、人脈が広がって、その人たちがおったから今こうやっていけよんかなって。

市長　なかなか秋山さんのような経歴で芸能人・タレントってなかなか他にいませんもんね。

秋山　そうですね。60過ぎて退職したただの田舎もんのじじいがスカウトされたんで、それはやっぱりありがたいし、元刑事で42年全うして過去に警察24時出とったんで、そういう活動を見てこの人しかおらんていうて引っ張られたみたいなんですけどね。ほんまはテレビに出たくなかった自分ですけど今は社会貢献する上で非常に良かったかなと思っています。

市長　金銭面とか儲けたいとか、どうしてもそういう部分に走って本来の意思や意図が変わっていく人がいると思うんですけど、秋山さんの場合その芯の部分がしっかりしてますもんね。

秋山　いやいやまだまだです。

　ほんまに平和な犯罪のない社会にしたいっていう気持ちはあるんで、今後は全国の刑務所、全国の少年院に行って再犯防止の講演をしたいと思っています。

市長　そういう犯罪を犯した人の更正のために。

秋山　そうですね。刑務所内に長期いる人は、だいたい私のこと知ってるらしいんですよね。この前仕事で九州の福岡